

だいせつぎんのすがお

大雪山の素顔

山岳ガイド、旭岳ビジターセンター、自然解説員などで活躍する人たちをリレーしています。高山植物、紅葉、雪、動物など「自然の大博物館」といわれる大雪山の素顔が見えてきます。

憧れが詰まっている山に添って

旭岳山頂から南方向を眺めると、はるか遠くに鎮座している王冠形の山が目につきます。トムラウシ山です。

広大な大雪山国立公園のちょうど中心部に位置するため、どの登山口から登っても山頂までの道のりは長く、最短のコースでも往復12時間はかかる大変な山です。

その奥深さゆえに原始的な山岳環境が広範囲に残されていて、自然の中にどっぷりと浸ることができるのが大きな魅力です。

また日本百名山の一座でもあることもこの山の人気を高めています。簡単には登れないけれどもいつかは登りたい憧れの山となっているゆえんです。

もうずいぶん前のことになりますが、初めてトムラウシ山の頂を踏んだ時にはそれはうれしかったものです。遠くから眺めるだけだった山に立つことができたのがにわか信じられませんでした。

時間の許す限りずっと山頂で景色を眺め続けていた記憶があります。とはいえそれも今は昔。登山ガイドという仕事柄、山頂を訪れる機



▲旭岳から見たトムラウシ山

会が多くなり、知らず知らずのうちに憧れが色あせ、慣れと日常が取って代わり、いつしか“当たり前”の山となっていました。

つい先日もトムラウシ山に登ってきました。ご一緒したお客さまにとって、やはり憧れの山だったそうです。

一度計画を立てたのに悪天候で中止となってしまう、それ以来機会に恵まれず思いだけが募っていったのだとか。

最初のうちは割とよくある話だと思って聞いていましたが、すぐにそれはとんでもない間違いだと気がつきました。

というのも、以前の計画というのがかれこれ20年も前のことだったのです。

30代のその方は、その時以来人生の半分以上の期間、トムラウシ山に憧れ続けてきたこととなります。

山頂に立つお客さまの後ろ姿からは長年の思いが静かににじんできているようで、時間を共有した私にとって、トムラウシ山は再び特別な山となりました。お客さまの特別な思いが、私から“当たり前”という慣れを取り払ってくれたのです。

大雪山の素晴らしさや、そこで過ごすひとときの貴重さを、私たちはつい当たり前ものと感じてしまいがちです。

でも、お客さまにとっては、それぞれに思い入れがある特別なものなのです。

その思い入れを日々お裾分けしてもらいますから、お客さまの思いを背負ってガイドする登山ガイドはとてもぜいたくな仕事に違いありません。

山樂舎BEAR 土栄 拓真

俳句

自墮落に生きたくもなる猛暑かな	石澤清宏
沸きたつや水平線より泡ビール	澤田久美子
青嶺とぶ離陸の「G」をたのしみぬ	松山蓉子
夾竹桃川面に映えて平和折念	三島智
母の忌やまんじゅう持って麦の秋	秋山深雪
炎天下大道芸に賑はひぬ	長谷川きみゑ
ほろ苦きビール過去への回帰線	小林露葉
念力のゆるむ女身のビール酔	青野公花
緑陰に風を讃えて老二人	杉山ひろのり
白牡丹咲けりと妻の遠電話	徳光吐苦
万緑や片道切符で生をなす	杉山りつ
百点の今日一日にビール汲む	山口佐知子
ひとくちの麦酒がすべて帳消しに	高瀬潤
7月号掲載の句に誤りがありました。 お詫びして再掲載します。	
今日の日も恙無しやと門涼み	高瀬潤